

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104050
法人名	有限会社 たすけあい鹿児島
事業所名	グループホーム中山の里
訪問調査日	平成19年11月15日
評価確定日	平成20年2月20日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月14日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県第4670104050		
法人名	有限会社 たすけあい鹿児島		
事業所名	グループホーム中山の里		
所在地	鹿児島市上福元町5933番地 (電話) 099-266-0003		
評価機関名	特定非常利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成19年11月15日	評価確定日	平成20年2月20日

【情報提供票より】(19年 11月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 1月 5日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 2人, 非常勤 16人, 常勤換算	13.36人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	1日 600 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月 25日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 82.2 歳	最低 73 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	谷山生協クリニック 迫口医院 大迫(歯科)		
---------	-----------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地と田園に囲まれた中にあるホームである。家庭の延長という視点を重視した居住空間作りは開放的で明るく居室はプライバシーが守られている。運営者、職員は心身の介護について安全に固執せず、援助を目的とし、入居者の個性や状態に合わせて、日々行動できるように、きめ細かな支援を心がけている。外出の機会を積極的に作り、地域資源を多に活用しながら、自主性の尊重と見守りを中心に心がけ入居者との信頼関係を築き上げている。ケアの積み重ねの結果は入居者の笑顔になり家族等の喜びとなっている。その事が職員の喜びや励みになり充実感を味わっている。恵まれた環境の中で、地域住民、学生、保育園児の来園やボランティアの受入れ等交流があり地域に支えられている。まさに地域密着型サービスを実践しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	市町村との連携を密にとる事の改善課題について、介護相談員や市担当者に対して相談し助言を貰うなど行政機関と連携を図り改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	定期的に行なわれる職員会議やミーティングに、運営者・職員は自己評価について話し合い、意義を理解している。評価に前向きに取り組みサービスの質の向上に努めている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議は定期的に行われている。地域住民代表や家族等の参加があり、ホームや地域行事への参加の呼びかけや事業所の実施状況が報告されている。意見や要望等を受けてサービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	定期的なホーム便りの発行と、家族会、親睦会(年2回)、面会時に日々の暮らしぶりや金銭管理について報告している。また、受診結果報告時や運営推進会議等で意見や要望を出してもらい出された要望は職員と話し合い対応できるように努めている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入し、地域の夏祭りや夏休みのラジオ体操へ参加している。他グループホームの相互訪問や保育園児の来園、隣接のデイサービス利用者との交流が行なわれている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの意義と役割、地域で暮らし続けるための理念をホームの原点として作成し、日々のケアに活かしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールや玄関に明示している。申し送り時やスタッフ会議時に唱和して共有に努め、日々のケアに実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の夏祭りや夏休みのラジオ体操への参加をしている。又他グループホーム利用者の相互訪問や保育園児の来園、隣接のデイサービスとの交流が行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期的に行なわれている職員会議やミーティングに運営者職員が参加して自己評価について話し合い、意義を理解している。評価に前向きに取り組むサービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行われている。地区住民代表や家族等の参加があり、ホームや地域行事等への参加の呼びかけや事業所の実施状況が報告されている。意見や要望等を受けてサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員への相談や事業所の提出書類の内容や制度の件についても、助言を貰うなど行政機関と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的なホーム便りの発行と、家族会、親睦会(年二回)、面会時に日々の状況や暮らしぶり、金銭管理、病院受診の結果等細やかな報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設けている他、面会時や運営推進会議等で意見や要望が出されている。出された意見や要望は職員と話し合い、即対応できるように心掛けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、職員共に入居者と馴染みの関係が出来ている。やむを得ない異動の際には一定期間の研修を行い、入居者へのダメージ予防に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に地区で行なわれる勉強会に参加している。外部研修は、積極的に交替で参加し復命研修報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の勉強に参加する他、他グループホームとの相互訪問を積極的に行い、交流や情報交換を行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者に対しては入院先や自宅を訪問し、面会をもちホームの見学や、入居者と一緒にレクリエーションやお茶を共にしてもらうなど徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	囲碁、ピアノ、漢字を書く等、得意な事を楽しんでいる。年間行事の行事食(春はぼたんの花にちなんで、ボタもち、秋は萩にちなんで、オハギという等)語源の由来を教わるなど、良好な関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で言葉による意思の疎通がはかられている。1人ひとりと向き合って思いを聞くように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケアプランの手順を踏まえて、主治医や家族の意見を活かし、センター方式による本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しと、状態変化時に担当者会議を開き、現状に即した計画を立てている。見直し後の評価を行い達成度や次の計画に活かすように取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて、病院受診や外出など必要な支援で柔軟に対応している。又、24時間医療連携への取り組みを検討している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅医療指導を受けながら家族と相談し、かかりつけ医への受診の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や本人に関わるケア関係者(主治医、ケアマネジャー、消防署)と連携を取りながらホームの指針を説明し最善の対応ができる様に取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報保護の誓約書をかわしている。入居者の尊厳を大切に、穏やかな声かけや態度で対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの目安として一応の時間の流れは決められているが、一人ひとりの状況に合わせて入居者のペースで生活できるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に献立を考え、食材の買い物や下ごしらえなどを行い、職員も一緒に時間をかけて楽しく食事をしている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望する入浴時間に介助できるように心掛けている。気の合う利用者同士で一緒に入浴を楽しむこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホールの掃除、お茶の時間の分担作業や草取り、漢字書き、折り紙、ピアノ、ぬり絵等日常生活の作業やレクリエーション等得意な事に力を発揮できるように支援している。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、近くの道の駅や物産館、他のグループホームを訪問するなどホームに閉じこもらない工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、職員は鍵をかけないケアの重要性を認識している。鍵をかけず、入居者の動作や所在を確認しながらきめ細かな見守りをし、一緒に行動するように心掛けている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域住民の参加のもと、避難訓練、初期消火、通報訓練を定期的に行い、2階入居者の避難方法など特に配慮しながら行なっている。災害時の備蓄もしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事摂取量を記録している。体重測定を行い、体調変化に気を配りながら一人ひとりの状態や力量に促した支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂テーブルに季節の花が飾られており、壁には手作りカレンダーや季節の行事を感じさせる工作物が掲示されている。台所、トイレ、浴場など清潔に保たれて、家庭的で生活感あふれる共有空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、カセット、電子ピアノ、洋服かけなどそれぞれ馴染みの物が持ち込まれて個性があり、居心地良く過ごせる居室作りである。		